社会福祉法人ゆたか福祉会広報

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

2022
No.470

障害者のゆたかな未来をめざして 3

「みんなDE名古屋」
つゆはし作業所　ほかほか班
※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

▶ 1.15　オンラインで職員研修開催 …… P 2～5
▶ その人らしく～働く・暮らす～　連載 100 回記念 …… P12

2022年3月10日　毎月1回10日発行　一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会　〒457-0852　名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356　FAX 052-698-7358　http://www.yutakahonbu.com/

愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会　検索

1.15 オンラインで職員研修 開催！

1月15日（土）、今年度3回目となる職員研修をオンラインで行いました。午前中は2021年度事業の進捗状況についての報告、午後からは「強度行動障害のある方への支援」をテーマに、講演と報告を行いました。以下、内容を紹介します。

◆午前企画

【後藤理事からの報告】

冒頭で、理事長が1月4日に転倒され入院し、回復には数ヶ月の時間がかかる見通しであること。本日の報告は、新型コロナ感染症対策、今年度事業の重点課題、実践や運営上の課題、介護・福祉職の処遇改善の4点であり、重点課題については、各担当者からの報告となることが話されました。

まず新型コロナウイルス感染症対策については、2020年2月から2021年8月までの法人内でのクラスター発生は計7回、オミクロン株の市中感染が急拡大している中で、影響が出てくるのは時間の問題ではないかと述べられました。今後は1月に見直しを行った活動ガイドラインに沿った対応と、改めて事業継続計画（BCP）の再確認を行っていくことが提起されました。

実践や運営上の課題としては、まずセクシャルハラスメントについての報告がありました。この間2つの懲戒処分を出したことに触れ、長時間での一緒の仕事、加害者側が年齢・職歴が長く、セクハラ行為の認識が弱いなどの共通点があると語られました。改めて相手を仕事の対等ななかまとして見ていくことの大事さと、相談・訴えの窓口があっても機能していなかった実態を踏まえ、年度内に匿名性が担保できる方法でアンケートを取り組むことが報告されました。

現場での利用者をめぐる事故については、9月の職員研修でも注意喚起を行い「車両乗降時の利用者の所在・安全確認の基本事項」を策定し、対策を強化してきたにも関わらず、その後も2件の事故が発生したこと。また福祉施設での労働災害が多発していることや、自己申告書において「社外健康管理室こころめいと」を知っている方は72％と一定周知され、現在までに十数件の相談が寄せられていることも報告されました。

介護・福祉職の処遇改善についてはこれまでの賃金改善について触れながら、法人全体では加算不足分を法人が独自に負担をし、取り組んできたことが報告されました。

【重点課題の報告】

地域生活支援拠点事業所

昨年10月、たくさんの素敵な名前が公募で集まり、ホーム名は「まーぶるホーム」、建物の名称は「ゆたか地域生活支援拠点事業所まーぶる」に決定しました。さらに、昨年11月から12月にかけて、グループハウスなぐらからの名古屋への地域移行希望者向けの体験利用がエール

にて実施されました。

名古屋での生活が少しでもイメージ出来るよう日中活動施設の見学、ヘルパーを利用した余暇外出を実施し、12月末までに入居希望が提出されました。1月6日の選考では、グループハウスなぐらからの利用者と、名古屋市内の地域支援事業所で、障害の進行や高齢化により既存のグループホームでは生活が難しくなってきた利用者あわせて17名の入居者が決定しました。

3月下旬の完成まで建設期間も残すところわずかとなり、これからは各階の内装工事が始まっていきます。また、なぐらからの引越しに向けての検討や、4月からの日中活動事業所の利用に向け、受入先や日課の検討が進められていきます。建設検討委員会では、名古屋での新しい生活が、安心のおけるゆたかな彩のある生活となるよう、精一杯準備を進めていきたいと思っています。

ゆたか生活支援事業所みなみ　西原 恵美

福祉村将来構想

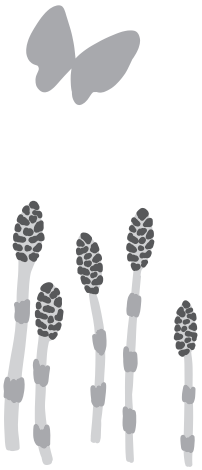
福祉村の将来構想については検討会議を定期的に開催し、福祉村の将来的な姿や図面の整理、職員配置の状況などのシミュレーションを行っています。

福祉村には現在、2つの障害者支援施設がありますが、2022年度の名古屋への利用者移行により、全体の利用者数は55名前後となる見込みです。そのため、2つの施設を第2ゆたか希望の家に統合し、「暮らしのエリア」として事業運営を一本化していく予定です。身体障害の方が知的障害の施設に移ることになりますので、機械浴の移設や生活棟の整備、日中の活動現場の確保など検討を進めています。

また、グループハウスなぐらの建物設備は、そのスペースを活用して、地域ニーズを踏まえた新たな事業の展開や、地域の個人・諸団体の居場所や交流を行う「活動や地域交流のエリア」としていきます。町や地域住民と一体となって、地域課題に取り組む拠点として発展させていければと考えており、町役場とも懇談を重ねています。

福祉村家族会には説明会を開催し、今後の運営に関して様々なご意見を頂いたところです。今後、そうしたご意見も踏まえ、さらに将来構想の内容を深めていく予定です。

グループハウスなぐら　荒川 元仁



海外人材確保の取組み

法人として取り組んでいる海外人材確保について、この間の取り組みの状況を報告しました。

新型コロナの影響で入国待ちの状態ですが、現在4名の技能実習生と、2名の留学生がゆたか福祉会で働くことをめざしています。

ゆたか福祉会で海外人材の取り組みを本格的に開始したのは、2019年からになります。日本全体の人口減少、福祉の担い手不足という現状から、人材確保の取り組み強化の目的のひとつとして開始しました。

当初は、設楽町にある事業所への配属を目標に取り組みを始めましたが、ベトナムのフエにある「フエ科学大学」との出会いがあり、現在はベトナム中部の都市、フエでの取り組みが進んでいます。

この取り組みは私達だけでなく、この間、交流を重ねてきた社会福祉法人愛光園、社会福祉法人名古屋ライトハウスの3法人の協同の取り組みとして進めています。2020年10月からは、同大学でこの3法人と提携した形で、「日本語と日本の介護技術を学ぶコース」が開校しました。先に紹介をした技能実習生の内2名はこのコースの受講者です。来日され、一緒に働くことを待ち望む日々です。

法人本部　宇川 賢彦

◆午後企画

講演

テーマ

強度行動障害の理解と実践の取り組み

講師　たくと大府施設長　林 大輔氏

障害の基本的理解や「たくと大府」における様々な取り組みを、具体的な支援例、映像を交え分かりやすくお話して頂きました。特に事業所を立ち上げる際には「実際に利用される方がどのような空間だと使いやすいのか」「職員はどのような配置、動き方をすればいいのか」等、徹底的に議論し、設計から携わったというお話が印象的でした。

講師の方が繰り返し言われていた「利用者の好きな事、出来る事を広げ自立度を高める工夫と、苦手な事、どうしても難しい事は配慮（環境調整する）」という視点は、私たちも改めて大事にしていきたいと感じました。

今回の研修では、他法人の先進的な取り組みや実践の報告を聞くことができ、自分たちにはなかった視点や視野を広げる事に繋がる有意義な場となりました。また、他を知る事で自分たちの行っている実践や事業を見つめなおす事にもなります。こうした研修を通して「ゆたか福祉会が大事にしたい実践とは」を改めて考えていきたいと思います。

ライフサポートゆたか　今治 信一郎

事業報告

強度行動障害者専門員派遣事業を通して見えてきた現状と課題

名古屋市強度行動障害者支援事業（以下強行支援事業）の報告を行いました。強行支援事業は平成30年度に名古屋市独自の事業として、名古屋市から名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会に委託されスタートしました。現在、ゆたか福祉会「ライフサポートゆたか」事務所内に、専任の事務局員を配置し事業を推進しています。

研修では事業の説明と併せて、事業メニューの一つである専門員派遣事業（事業所に対し、強行支援事業から専門員を派遣しスーパーバイズ）を利用した事業所の実践報告もありました。

日常的な支援の中で、仲間たちの行動の理由や想いが分からず、どのように支援をすれば良いのか悩み迷うケースは多くあります。専門員派遣を利用する事で、違った視点や角度からの助言を通じ、仲間たちの行動の理由に気づく事があります。また、支援を通して仲間たちが変化していく姿を感じる事が、職員の新たな気付きや成長に繋がったという報告もありました。

本来、実践現場の中には、「仲間も職員も共に育ちあう」瞬間や出来事、機会がたくさん散りばめられています。こうした取り組みを通して、ゆたか福祉会の理念でもある、ゆたかな暮らしの実現に繋げていきたいと思います。

ライフサポートゆたか　今治 信一郎

実践報告

■ふれあい共同作業所

当日の報告はまず、これまでのＡさんの様子をいくつか事例形式でとりあげました。派遣事業で行った支援検討とこれに沿った現在までの実際の支援・アプローチの流れについて、映像も織り交ぜながら報告しました。

これらの支援を検討及び実践していく中では、「行動の意味を考えて整理することがご本人の安心する支援に繋がっていくこと」や、「その方が何に困っていて、私たちにはどのようなサポートができるのかを考えること」が大切であると改めて学ぶことができました。

今後も今回の経験や学びを財産としながら、日々の支援にあたっていきたいと思います。

大石 雅生

■ゆたか生活支援事業所なかがわ

自閉症のKさんについて報告しました。Kさんは入居当初から、様々な物が気になり、こだわってしまう場面がありました。最近は、特に靴に対してこだわる場面がみられました。ほんの少しでもほつれ、破れが出ると気になってしまい「靴をなおしてほしい」と訴える場面がみられます。対応ができないことを伝えると、手を噛む、頭を強く叩くといった激しい自傷行為がみられました。こだわりが出たら新しい物を購入することにした結果、購入スパンが頻回になっていました。

どのような支援をすれば良いか悩んでいる時、専門員派遣を利用しました。専門員からのアドバイスは「靴を購入する見通しが分からないから困っているのでは」というものでした。元々あったカレンダーにアレンジを加え、帰省・休日の予定・靴の購入日などあらゆる予定を入れ、Kさんとのコミュニケーションツールにし、毎月確認するようにしました。

最初は戸惑う場面もありましたが、Kさんが少しずつ理解をされていく様子が伺えました。今でも靴などにこだわる場面はありますが、以前のように激しい自傷行為は減り、Kさんにとっても良かったと感じています。

鳥田 広祐

【感想抜粋】

〈法人からの報告〉

・コロナ対策をしつつ仲間に喜んでもらえる取り組みについて、実例も含めて話を聞きたい。
・セクハラの加害者が自覚なくハラスメントをしていること、なぜそうなるのか、とても分かりやすかった。今回参加できていない非正規の職員さんへも是非伝えたい内容。
・セクハラについて、もし自分の身近で起こった場合は「疑い」でも申し出る必要があると思った。
・現場での利用者をめぐる事故多発について、もっと詳細に知りたいし必要だと思う。
・海外人材の育成について、グループホームの仕事は一人職場なのでお互いにどうやって伝えるのか不安。

〈講演〉

・強度行動障害について学びたいと思っていたので良かった。たくと大府に見学に行きたい。
・障害者だけでなく高齢者、特に認知症の介護でも使える施設の形なのではないかと感じた。
・既存の施設の中ではソフト面を重要視しやすいかもしれないが、既存の建物の中でも工夫次第でたくさんのハード面の整備ができそうだと思った。
・事業所では「担当が…」という風潮があるので、チームでの支援をしていきたいと改めて思った。

〈報告〉

・氷山モデルは強度行動障害に限らず利用できそうだと感じた。
・組織で方向性を揃え、支援を統一することが大切と感じた。
・体験の共有の不足が利用者に対しての否定的な発言、捉え方に繋がってしまうこともあると思う。体験を共有できる場作りを考えていきたい。
・大切なのは職員に対する支援だと思った。困っている本人にどのように向きあっていけるのか、職員を支援する先輩職員の力量が問われているように感じた。
・派遣事業と聞くととても困難なケースと思いがちだが、もっと気軽に利用していいのだと感じた。
・実践報告は事例の具体的状況、専門員による指導、行動やその背景の分析、課題の設定、実践、次の課題という流れがわかり、大変良かった。

研修を終えて

参加者は約180名でした。内容に関しては、久々の外部講師をお招きしての講演もあり「外部講師のお話があると研修が締まる感じがするので良い」「テーマに沿った構成で分かりやすかった」「質疑応答ができたらもっと良かった」等の感想が寄せられました。

また9月に引き続き、オンラインでの1日研修となり、こまめに休憩時間を取るなどの改善を行いました。今後は各事業所におけるオンライン研修にむけた環境整備等、みえてきた課題について検討していきたいと思います。

文責　研修部長　向 幸子

『障害者の「親なきあと」問題と成年後見制度』を冊子としてまとめました。

広報誌上で1年間（2021年1月号～12月号）連載をしてきました『障害者の「親なきあと」問題と成年後見制度』を、この度冊子としてまとめました。

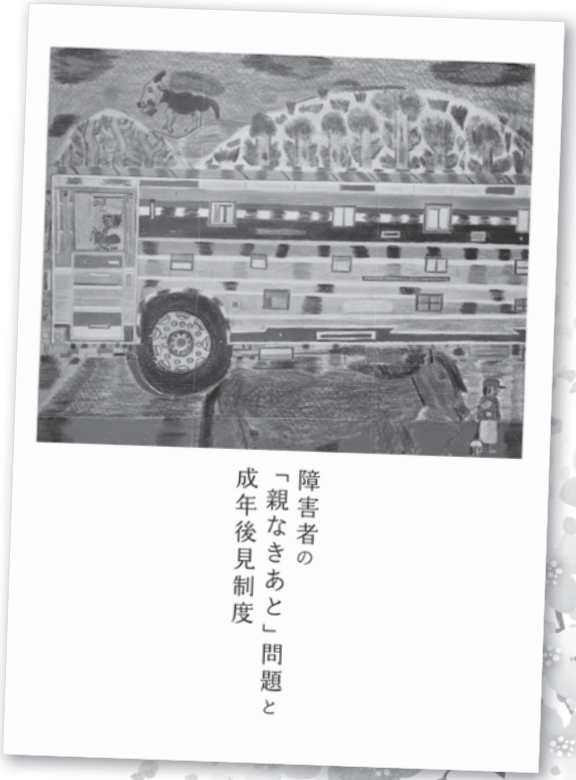
法人内の仲間達の高齢化が進む中で、成年後見制度の問題は避けて通れない課題となっています。また、ご家族にとってもこの問題は関心が高い内容です。連載を改めて読み返してみると、制度の概要・法人の運営、実際の制度活用事例、わかりやすいQ＆Aなど、「NPO法人成年後見もやい」（以下もやい）のスタッフが丁寧にまとめてくれていることがわかります。私達編集委員としては連載で終わるのではなく、冊子とすることで積極的に活用してほしいという期待をもって作成しました。

冊子に記載されていますが、もやいはゆたか福祉会のご家族の願いから出発し、様々な議論や検討を経て、2017年9月に、ゆたか福祉会も参加するNPO法人という形で発足しました。

現在はグループホームの仲間達を中心に、多くの仲間達が成年後見制度を利用しもやいの支援を受けています。また、もやいは社会福祉法人を含めて、団体と個人の会員で構成されています。行政からの補助を頂いていない法人ですので、まさに私達自身が関わり、支えている組織です。

この冊子は、ゆたか福祉会の職員やご家族に読んでいただくことと、あわせて成年後見制度やもやいの活動について関心のある多くの皆さんに知って頂くことを目的に、1500部印刷しました。

1冊300円（別途送料負担）で販売しています。ご希望の方は法人本部までお問い合わせください。



冊子の内容紹介

- 関係者の協同の取組みで「成年後見もやい」の発足
- 成年後見制度の概要①
- 成年後見制度の概要②
- 成年後見制度と日常生活自立支援事業
- 市長申立・後見人等報酬・成年後見利用支援事業
- 意思決定支援と成年後見制度
- 入院、身元保証、医療同意と成年後見制度
- 親が元気あるうちに準備することと後見申立てのタイミング
- 死後の事務について
- 関係者の協力・共同によるもやいの運営
- 成年後見もやいの後見支援員
- Q＆A集
- 資料編

第311回理事会と今年度2回目の運営協議会が開催されました

2022年2月5日10時より、第311回理事会が開催されました。

当日はリモートで参加された理事長の挨拶後、業務執行理事の業務報告と新型コロナウイルス感染症の対策についての報告が行われました。2月4日午前時点で、感染者数21名（利用者10名、職員11名）、濃厚接触者（自主認定含む）99名（利用者64名、職員35名）、感染発生事業所は12か所、内全部又は一部休所した事業所が8か所など、感染拡大がゆたか福祉会の事業に大きな影響を与えていること、特に1月までは「点」で発生していた感染者が、2月に入り「面」へと広がるようになり、より強い警戒が必要になっていることが報告されました。

続いて第1号議案から第4号議案が報告され、質疑応答が行われました。第1号議案「21年度事業計画の成果・課題と22年度事業の重点課題」では、SDGsに関すること、ゆたか福祉会の50周年事業に関すること、人材育成に関することで活発な議論がありました。

SDGsに関しては、「ゆたか福祉会が実践してきたことが、すでにSDGsに含まれている。そのことを共有して取り組みを進めていくことが大事」という意見がありました。50周年事業は新型コロナウイルス感染症で開催が出来ない状況が続いていますが、「ゆたか福祉会だけの50周年ではない」と周りの団体からも期待されており、やり方や位置づけを含め「みんなの50周年」となるように工夫が必要との意見がありました。後半では第2号議案「福祉介護職員処遇改善交付金等への対応」、第3号議案「所長人事」、第4号議案「評議員会の招集事項の決定」の提案と質疑応答が行われました。

午後からは通算8回目、今年度2回目となる運営協議会がオンライン参加も含め、11名の参加者で開催されました。8月に行われた第1回目以降の法人事業の動きと次年度の事業計画について報告し、利用者・家族・地域関係者の皆様から多数のご意見をいただきました。

特に新型コロナウイルス感染症対応では、利用者の心配や悩み、ストレスに対するケアや、利用者向けの情報が足りないこと。ご家族からはコロナウイルス感染症対応で家族会の開催頻度が減る、ないしは開催自体がなくなっており、もっと定期的な情報提供が必要とのご意見がありました。

法人としても職員向けの情報発信は密に行ってきましたが、家族や利用者向けの情報発信については課題があり、今後の取り組みにご意見を活かしていくこととしました。また、福祉村からまーぶるホームへの移転、福祉村将来構想については生活が大きく変わる事の不安、第2ゆたか希望の家の利用者のこれからの生活、また事業継続に対しての不安な気持ちが率直に出されました。今回出された様々なご意見を、22年度事業計画に反映していけるよう、検討を進めていきたいと思います。

ゆたか希望の家
倉地 伸顕

オンラインで きょうされん 第25回 経営管理者総合研修会が開催されました。

当日は理事長の斎藤なを子氏からの開会挨拶にはじまり、赤松常務理事からの基調報告と記念講演を挟んで、2つのシンポジウムが行われました。折しも感染力の強いオミクロン株の猛威が日本中を覆うなかでの開催となり、登壇された皆さんからは口々に切実な現状が語られました。このような状況下ではありましたが、全国からは350名を超える参加者があり、困難な中だからこそ、つながり、語り合うことの大事さが力強く語られました。

ゆたか福祉会からも約20名が参加し、それぞれが貴重な学びを得た研修会でした。以下、参加者からの感想を紹介します。

〈参加者の感想〉

みのり共同作業所　佐藤 正章

同志社大学の岡野八代氏の記念講演は、必死に話についていかなければならない程、熱量が強く感じられる内容であった。この2年続いている「コロナ禍」を「コロナ対策禍」であり、「ケアレスな人たちが政治家」等と、コロナ禍において迷走している政治を表現し、痛快さを感じるものであった。講演の最後に語られた「政治の変革を求めなければ日本社会は沈む。命を犠牲にする民主主義はあり得ない。」という話は改めて政治への関心を持つ必要性を感じた。

今回の研修を通し、様々な連帯も行いながら視野を広く持てるように、また働きかけねばと感じた一日であった。一方で300名を超す参加者との事だったが、パソコンの画面では全国からの参加者の姿は見えず、残念さも感じた研修でもあった。

リサイクル港作業所　萩原 千秋

研修会で印象に残ったのは、東京都立松沢病院の報告「コロナは私たちの暮らしをどう変えたのか」である。「民間精神科病院のコロナの感染拡大は、精神障害者が必要な医療や支援を受けることが困難であること、それは新しい課題ではなく従来の課題が顕在化しただけ」と。

クラスターを発生した障害者施設や高齢者施設からの受入れで、目の当たりにした7つの課題（個室がない、バリアフリー構造になっていない、福祉用具が少ない、常勤職員が少ない、医療行為対応範囲が狭い、家族が一般病棟と精神科病棟の違いを十分理解していない、地域の中で孤立しがち）は容易に想像がつく。患者や家族の自由権を侵害してきたのではないかと振り返り、意向や生き方をやり取りする必要性は我々の現場にも通じる。

ゆたか生活支援事業所あつた　阿部 直美

「次世代へ移行～共に育つための仕組みづくり～」の講義中のキーワードは「やらされ感・私じゃなくても良いんじゃないか」だったと思う。

勿論、進んで管理職やってる！という人は少ないだろうし、私も所長として力不足を感じる日々で、正直「私じゃなくても…」と考える事もしばしばである。しかし今回の研修に参加して若い管理者の悩みを聞き、かつて私が大先輩の姿に憧れ「あんな支援が出来るようになりたいなぁ」「この人と働けて良かった」と感じた事を思い出し、「偉大な先輩のようにはなれなくても、〝あった〟で働く方々が笑顔で元気に働いて欲しいな」と思った。このコロナ禍、管理職としてどうしたら良いか悩む事も多いが、なかまたちの笑顔を糧に、皆さんと共に育ちあい、楽しく働き続けたいと感じた。

かつて次世代研修で苦楽を共にした仲間が発言者だった事も、私を前向きにさせてくれた。対面での研修参加が難しい昨今だが、今後もこれまでの繋がりを大事にしたい。

皆様へ感謝を込めて ～大切に使わせていただきます～

✻株式会社 ユニオンサービス 様

年末のカレンダー販売や夏冬の物資販売などで、長年お付き合いのあるユニオンサービス様から、この度50周年の記念品を頂きました。

本来であれば2年前の3月に予定していた「50周年記念集会」で、仲間達に直接お渡し頂くことになっていましたが、記念集会が"コロナ"の影響で延期となり、そのまま保管していただいたものです。そして現状では今後の先行きも不透明なことから、今回職員分も含めて786個の記念品を正式に頂くことになりました。

改めて株式会社ユニオンサービス様、相談役の毛利登様に篤くお礼申し上げます。

法人本部　宇川 賢彦

▲いただいた記念品

✻名古屋福祉支援 チャリティーゴルフ 様

ゆたか作業所デイサービス現場は身体障害を持つ仲間たちが多く利用しています。二次障害などで体の痛みを訴える仲間も少なくありません。以前は現場にベッドが一つしかないため、少し横になって休みたい時でもすぐには使えず、「もっと気軽に休憩できるといいなぁ」と希望が出されていました。

今回頂いたご寄付では、電動リクライニングベッドを購入させていただきました。これまでは交代だった休憩も、二人同時にできるようになり、またベッドの高さも利用するなかまが立ちやすい高さに合わせる事が出来、とても使いやすく、安心して利用出来ています。

また活動でリハビリやリラクゼーションをする時も、車いすからベッドに移乗し行うことができるようになりました。

ゆったりと気持ちよさそうな仲間たちの表情を見ると、職員もうれしく、良い整備ができたと感謝の気持ちで一杯です。

稲垣 静佳

✻ACCJ／NIS中部ウォーカソン 様

ワークセンターフレンズ星崎では、スライドや動画などをテレビ画面に映し出し、利用者の学習会やレクリエーション活動を進行することがあります。今はコロナ対策として密を避けるために参加者同士で互いに距離をとると、画面から遠ざかってしまい、見えにくくなることがありました。

今回、中部ウォーカソン様より頂いたご寄付で、新たにプロジェクターを購入することができました。大画面になって会場内の一番奥からでも映像を鮮明に見ることができ、スピーカーからの音も聞き取りやすくなりました。

職員のオンライン研修の受講にも活用できます。日常の活動や施設の行事にもいろいろと制約がありますが、工夫しながら利用者の活動の充実に努めていきたいと思います。

ご支援ありがとうございました。

山﨑 利浩

森井さんの絵が「みどりアートフェスティバル」に出展されました！

「中国の街」森井照子さん

2月1日から9日まで、名古屋市緑区にある「徳重支所ギャラリー」で、障害の有無に関わらず、子供から大人まで応募できる作品展が開催されました。今回、この作品展に森井さんの絵が出展されました。

作品のタイトルは『中国の街』。大好きな人物や事物を色鮮やかに表現しました。これまでにもたくさんの作品を描き上げてきましたが、前向きな気持ちで明るい色を多く使っています。作品は、休日や夕食後に毎日こつこつと描いたもので、かなりの集中力が必要です。

「絵を描くことは子どもの頃から続けている」と自信に満ちた表情で質問に答えてくれた森井さん。「他の仲間や職員に作品を見てもらう事で自信に繋がっている」とも話していました。黙々と取り組む姿勢は他の仲間にも良い影響を与え、同じように折り紙や塗り絵に取り組む方もみえます。リビングで過ごしている時のみんなの話題にもなります。

作品展に出展されることが分かってからは「初めてのことだから緊張する」「何を着て行ったらいいかな」と緊張した面持ちでしたが、いろいろな事に前向きにチャレンジしたいと思っている森井さんです。

ゆたか生活支援事業所みどり　松浦 弘二

私のおすすめ 読んでみませんか

『詩、ときどきユーモア 明日はほぼ幸せ』

平岡 英男著（みのり共同作業所）

風媒社 1500円(税込)
送料無料

問い合わせ先
090-7044-8906　平岡

文化のある仕事がしたいとゆたか福祉会に就職しました。

私の詩は、感じた事を、自分の言葉でわかりやすく、腹をたてて書いたものもどこか面白くなってしまう、ユーモアのある詩がとても多いです。

今回の詩集は、ゆたか作業所の指導員となったころ（20年程前）に、毎日現場を抜け出してしまう仲間について書いた「ワタルさんの激励」や、そのころ誰からも『トコちゃん』と呼ばれていた仲間の素敵な笑顔について書いた「君の笑顔」。

みのり共同作業所のウエス班のとき、話し相手だった軍手業者の社長の、急死の悔しさを書いた「手袋を作って」などが現場から生まれた詩です。

その他に、「ナウシカの好きな娘へ」や、誰でも人間らしい暮らしをと願った「総理を生活保護に！」や、ゴミ拾いのお婆さんがタクトを振る「幻想交響曲」など色々です。読まれた方の良かったの「推し」が、それぞれ違います。

この詩集を手にして、読んで、ふと考えたり、楽しんでいただければ幸いです。

表紙の作者紹介

「みんな DE 名古屋」

つゆはし作業所　**ほかほか班**

この作品は、ほかほか班総勢14名のなかまのちぎり絵を組み合わせた大作です！

『名古屋』をテーマに「名古屋コーチン」「エビフライ」「手羽先」「天むす」「矢場とん」と、なかま・職員みんなで意見を出し合ったものを描きました。大好きな食べ物以外にも「名古屋城」「名古屋港水族館のシャチ」「東山動物園のシャバーニとぞう」「中日ドラゴンズ」「新幹線のぞみ」と名古屋名物、盛りだくさんとなりました。

材料は、ほかほか班の自主製品として作っている縫製品の余り布。どうしても製品に使えない小さな布をさらに細かく切ってちぎり絵にしました。

ほかほか班のみんなで食べに行きたい！遊びに行きたい！でも今は、作業所の中で出来る取り組みを楽しもう。みんなで協力してコロナに勝ったら行きましょうね！との想いを、この作品に込めました。

日誌　1月

12日(水)　主任フォローアップ研修（福祉村）
14日(金)　新所長研修
15日(土)　職員研修
17日(月)　フエ科学大学オンライン講座(～21日) /
事業運営推進会議
18日(火)　権利擁護・虐待防止会議
19日(水)　副所長会議
26日(水)　所長会議
27日(木)　広報・ホームページ編集委員会
28日(金)　就労支援事業推進委員会
29日(土)　きょうされん経営管理者総合研修会(オンライン)

一般寄附（1月）

丸山　了治
近藤　直子
武田美和子
浅野　清高
鈴木　徹朗
浅海　嘉夫
松島　時子

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

（1月6日～2月1日手続き分）

金田久美子　渡辺きよし
堀池　育志　小西　智江
石原　貞男　川端　幸代
渡辺　善之　伊藤智恵子

順不同 敬称略

ありがとうございました

広報・470号

2022年3月号(2022年3月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 ／ 社会福祉法人ゆたか福祉会
印　　刷 ／ 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 ＝ 年間1口6,000円、
賛助会員（個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円）

●銀行口座　名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行　柴田支店　普通預金 291-884
・中京銀行　鳴海支店　普通預金 150-425

●郵便振替口座　00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

【お詫びと訂正】広報2月号の掲載内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
P14「わたしたち成人式を迎えました」　誤：ゆたか通勤　正：ゆたか通勤寮

その人らしく 働く 暮らす
Vol.100

「その人らしく 働く・暮らす 連載100回目にあたって」

広報・HP編集委員会責任者 向 幸子

2019年7月に開催された「ゆたか作業所同窓会」

この連載は広報誌2010年7月号からスタートし、第1回目は職員1名と仲間2名の皆さんが登場されました。「大自然の中で季節を感じながら」と見出しをつけられたのは、第2ゆたか希望の家に入職された請川さん。リサイクル港作業所の菊本さんは「企業就職にチャレンジ」という文章を寄せられ、「働くことが元気の源」というタイトルで、ゆたか生活支援事業所なるおで暮らし、75才になっても元気に働く中村さんが紹介されました。

仲間・職員が1名ずつ登場する現在の誌面になったのは、第3回目の2010年9月号からです。

連載を始めるきっかけは「ゆたかと出会って40年」という仲間の皆さんがおみえになる一方で、その人生を共に歩んできた親の皆さんの思いも含め、語り伝えあう機会や職員が年々少なくなっていることでした。また職員にとっても事業規模が小さな頃は、顔と顔がみえる関係があり、「事務局ニュース」を通して身近な出来事を知ることもできましたが、規模が大きくなる中では難しくなってきました。

私たちの仕事は「相手を知る」ことから始まります。どんな職員がどんな思いで入職し、働き、事業を支えているのかを伝えていくことはとても大事であることです。また文章を書くことを通じて仲間をより深く知り、自らを振り返る機会にもなればと思いました。この他に年1回の企画として、2011年からは「成人式を迎えました」のシリーズ、2012年からは「わたしたち3回目の成人式を迎えました!」のシリーズをスタートさせました。

私は日本福祉大学に入学した春にサークル活動を通じて「ゆたか日曜学校」と出会い、現在では一番経験の長い常勤職員となりました。ゆたか作業所で3年間、新人職員として様々なことを経験したことが職業人としての礎になっています。乳幼児を抱えての夜の家庭訪問、夕食には「赤ちゃんも食べられるから」と茶碗蒸しを出して頂いたこと。親の皆さんと一緒に行った一泊旅行、夜は親の皆さんの出し物で盛りあがり、遅くまでの懇親会。そんな時代の中で育てて頂きました。

それから40数年、措置費制度から利用契約制度となり、私たちを取りまく社会環境も大きく変化しました。それでも変わらず、人と人とが〝ねがい〟でつながり、共に人生を歩む「仲間」として自分の人生を重ねていけることがこの仕事の魅力だと感じます。

連載をスタートして100回、11年余が過ぎました。その人を知り、その人生を支えてきた家族の皆さんの暮らしやねがいに思いを馳せていく想像力が益々重要な時代になってきました。この連載がそんな〝出会い〟のひとつになればと願います。

【お詫び】前回（2021年10月号）が「Vol.98」となっておりますが、2015年10月号が本来「Vol.53」のところ「Vol.52」となっており、そこからずれが生じておりました。大変申し訳ございませんでした。